

快速、ときわ号、同乗記

明るい車内、快適なスピード
名士連も大いにはしゃぐ

△五月三十一日午後七時四十五分、快速列車クモト号の試運転に同乗。始発の平野から諸橋市長、各公官、大会幹事部ら六名、それに車が主要駅に停まるところ、名士がぞぞぞと乗り込む水戸からは滋賀県知事、同県議長など、いわゆる七両編成三百余名を乗せた。快速列車女房が突つ走る。

△「あたし達も招待よ」と張切った若者衆、車が走り出したとたん紳士三人に手の割合で御祝

△「気にかづいたね」テーゼルエンジンだけ、轟音と振動がさ

△「まじいことの重油をたくために開け放れた車窓から少しう油煙か

△「旅、東京への道が急行列車より三

△「十七分も短縮され、しかも急行

△「しかし電車ではないから正に

△「国鉄急行の快速列車だ。しかも

△「金は激安で、よくこのこと。聞け

△「スピードは九十五キロ一なる

△「ほどである。ようやく東北も東

△「海道線にホド近い日本人らしい

△「つかうやがれになつたワケ

△「上野駅にすり込んだのが、

△「十時五十三分あたり時間八分の

△「海道線では、日本全国に通じ

△「まさに知事、各沿線町村長

△「各位は、快速列車、東北にも

△「ブリ向け下さ、常磐線電化促進の二つを掲げ、暑い中を国鉄本

△「社まで懇情に行つた。ご苦労さま

△「船城市のなぎさ海岸で

△「漁師が釣り、漁師がみつけ

△「三月九日、漁城市渚内地でイ

△「シモチの大群が死んでいるのを発

△「見されたが三十日朝、また同地

△「内日本水素小糸選手権の海面に

△「三百七十五キロ（約百貫）のイン

△「モチ、セクロイワシが死んでるか

△「水による窒息死でないかとみられ

△「いる。

△「秦は必ず微粉灰が勝原川の汚

△「水による窒息死でないかとみられ

△「する。

△「五、六百円だが、なかには二万

△「円も時金している子どもがおり

△「すごい時金熱をみせていく。

また魚百貫も浮く

八%、勤労したものの二%とほつ

ておの、一名並均の時金高は

五、六百円だが、なかには二万

円も時金している子どもがおり

すごい時金熱をみせていく。

△五月三十一日午後七時四十五分、快速列車クモト号の試運転に同乗。始発の平野から諸橋市長、各公官、大会幹事部ら六名、それに車が主要駅に停まるところ、名士がぞぞぞと乗り込む水戸からは滋賀県知事、同県議長など、いわゆる七両編成三百余名を乗せた。快速列車女房が突つ走る。

△「この日気温は三十三度を上回る

△「車の量で、車窓は全く開放さ

△「れている。涼風が明るい車内を突

△「き抜け、実に爽快である。

△「気につかづいたね」テーゼル

△「エンジンだけ、轟音と振動がさ

△「は湯本日立、水戸、土浦の四駅

</div

